

特定非営利活動法人色えんぴつ Kハウス 地域連携推進会議議事録

1 日 時 令和7年12月2日(火) 14:15～15:15

2 場 所 東京都大田区久が原 4-19-13 グループホーム「ベラミハウス」交流室

3 出席者

委員 6 名

委員 1 (地域の町会長)

委員 2 (地域の民生委員・児童委員)

委員 3 (地域の民生委員・児童委員) 委員 4 (地域の特別出張所長)

委員 5 (利用者家族)

委員 6 (利用者)

スタッフ 5 名

理事長 副理事長 グループホーム「Kハウス」世話人 同「ベラミハウス」世話人

同「SYホーム」世話人

4 会議内容<会議開始前にベラミハウス館内を案内>

(1) 開会の挨拶

・秘密保持についての再確認

・議事録の扱いについて、各委員に確認の上法人ホームページにて公表

(2) 理事長挨拶

有意義な話し合いが出来るようご協力をお願いしたい。

(3) 委員自己紹介

・所属と氏名などの自己紹介

(4) 法人及び施設紹介

①法人・施設の紹介

・法人内のグループホームの歴史

Kハウス(シェアハウスタイプ・女性のみ6名)→ベラミハウス(シェアハウスタイプ・男性のみ6名)→SYホーム(アパートタイプ・男女各3名ずつ)

・グループホームに入ると確実に健康になるようだ。

②グループホームの紹介

世話人の自己紹介を兼ねて

・「Kハウス」3年通過型のグループホーム

障害者雇用で働く方、在宅ワークをされている方、作業所通われている方など自立を目指して頑張っている。

交流が広がるよう食事会など女性同士賑やかに生活している。

・「ベラミハウス」3年通過型のグループホーム

利用者の目標に合わせて半年ごとに話し合っている。色々な方がいて通院や作業所への通所が原則、通院や通所が難しい方には世話人が同行している。

・「SYホーム」滞在型のグループホーム

長いスパンで困り事などを相談しながら解決に向けている。

アパートタイプのため自身で完結することが多い、交流室で味噌汁の提供をすることにより利用者同士の交流を図っている。

自分のリズムで生活をしてもらっている。

委員3からの質問

通過型の場合、利用期限があるが出ていくのが難しい場合はどうしているのか。

**理事長**

期限は東京都が決めてはいるが、課題がありもう少し延ばしたい場合は、地域の保健師と相談しながら延長できる場合もある。

③利用者及びご家族の感想

グループホームに入居した感想など

**委員 6**（利用者）

色んな方が住んでいる。食事も自分で買って調理し食べているし、金銭管理も自分で行うなど自立が出来ている

親と住んでいたときは親が用意してくれていたが、自立の練習が出来て自分のためになっていると成長を感じる。

利用者同士のぶつかり合いもないし、楽しく過ごしている。

何か心配事があれば世話人さんと相談するなど頼れる方が周りにいてストレスなく過ごしている。

**委員 5**（ご家族）

（これまでの経緯をお話し後）

大田区の福祉の窓口や医療機関等多くの方々の手助けを借りて作業所に通うことになった。その後こちらのグループホームに入居することになり同じ利用者や世話人のお陰で現在は社会復帰に向け区の障害者雇用で働いている。

地域の協力はもちろん、こうした施設があることは、本人達がいるところがあるという安心に繋がっている。

本人達が一番辛いし、それをうまく表現できないのだと感じている。

5 意見交換

**委員 4**

地域にオープンにしながら相互理解を進めていけたらいいな、どうしたらいいのかなと思いながらお話を聞かせて貰った。自分もこれまで支援をしてきたところがあったが、ご本人達は本当に優しくて繊細で、家族の方々もとても大変な思いをしてきている。本人達も地域とつながることで力を伸ばせるし、地域にたくさんの理解者や協力者が増えていくことが大切。地域は地域で支え手が少なくなってきたいて求めているところもある。

**委員 1**

地域について、今は隣との付き合い方も難しくなっている。そのような状況の中で大田区にはこうした施設が随分と多くなっていると聞いている。当地域にももう一つ施設が出来ると。昔は反対運動などもあったようだが、分からないことが不安。例えば地域の防災訓練があったら顔を出して貰えれば、その人がそこにいるという事が大切。災害時、誰かに思い出してもらえることが社会化の一步、お互いに思い出すことが助かることに繋がる。

そうした意味からも、こういう懇談会はどういう施設か理解できるし大事、地域のことも理解してもらいたい。

ストレスのかからない社会はないわけで、お互いにちょっとずつ負担を持ち合うことが大切だと思う。

**理事長**

嬉しいワードがたくさん出てきた。私達も障害を持っている人も外に出ていくのが怖かったと思う。実はこの辺の地区で作業所を作ろうというときに反対運動に合った。話し合ったときに反対している人は私達のことを十分に理解して反対している訳ではないという事がよく分かった。その時に後になって考えたら私達が逆に地域の役に立つということを考えていくことの方が先なのかなと思った。

私達も色々な特技を持った人がたくさんいる、それを引き出していただき、地域のためにこ

ういうことも出来ると言っていくことでお互いの交流が良くなっていくのではないかな。

#### **委員 2**

民生委員をしていると、本日の機会もそうだし嶺町の方で普通の家で気軽に行ける保健室があるが、全然知られてなくて私達は民生委員なので、知るきっかけはあるけれど全部を知るわけではないし、入り口だけ知って違う事を言ってしまうといけないので。このようにお話をすることも難しいと思うけれど知られていない活動は大田区の中でもたくさんあることが分かった。

#### **委員 5**

グループホームがあること自体を知らなかった。病院から将来へ向けて入りなさいとの紹介からだった。

#### **委員 3**

近くに重度の知的障害者の施設が建設中、何度も説明会が開かれている。知らない人はトラブルがあるんじゃないかなどと心配している。やはり知らないから。

#### **委員 1**

重度の方の施設で、何かあれば言ってほしいと伝えている。あまり囲い込まない方が良い。運営してみて色々な問題が出たら改善していけばいいと楽観的に考えることにしている。一定の確率で病気や障害はあるもの。だから普通に生活していただければいいのかな。

事務局から

1年に1度の開催、次回は11月を予定する。

### **6 閉会挨拶**

皆さんと一堂に会して色々な気持ちを話せるのは本当に幸せだと思う。

私どもとメンバーの皆さん、地域の方々と仲良く地域を盛り立てていきたい。

### **7 その他**

- ・委員1から3の方は、13時半にSYホーム交流室に参集見学、法人の車でKハウス前を通り、ベラミハウスに移動後、会議開催となった。
- ・会議では、次第のほか法人施設のパンフレットを配付、Kハウスでの行事写真・法人で作成した写真集を回覧した。